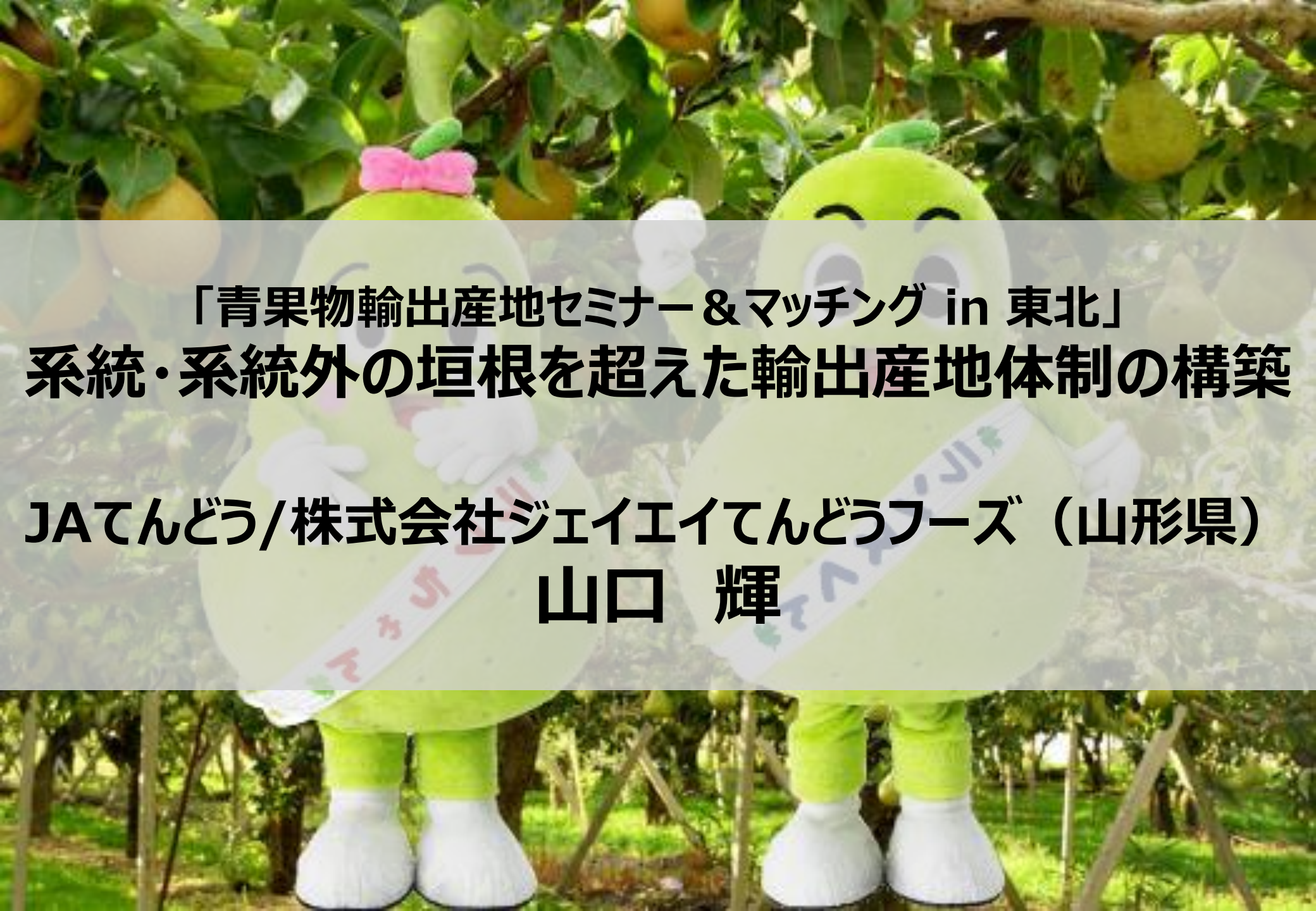


The background image shows two green pear mascots standing in a pear orchard. The mascot on the left is wearing a pink bow and a white sash with red Japanese text. The mascot on the right is wearing a white sash with blue Japanese text. They are both holding a white rectangular object. The orchard has many green leaves and yellow pears.

「青果物輸出産地セミナー＆マッチング in 東北」 系統・系統外の垣根を超えた輸出産地体制の構築

**JAてんどう/株式会社ジェイエエてんどうフーズ（山形県）
山口 輝**

JAてんどう/ジェイエイてんどうフーズとは

JAてんどうの山形県産品を中心にジェイエイてんどうフーズが販売



西洋梨、葡萄



フルーツゼリー

- **JAてんどう**は山形県を中心に位置しており、周辺では**果樹栽培**が盛ん
- **ジェイエイてんどうフーズ**は2001年に**JAてんどうの特販事業(青果物の通販等)**をメインに移管を受けて株式会社として設立
- 国内では果物とそれらを加工したゼリーやアイスクリームを製造・販売
- JAてんどうでは、昨年までに**西洋梨、葡萄**を**台湾、香港**へ輸出

輸出開始の経緯

収入を安定させる手段の一つとして輸出を検討

収入が不安定

- 国内向けの販売価格は**各産地の生産量**によって変動
- **生産者の高齢化、天候の影響**によって生産量が不安定

販路拡大

- **海外は国内相場に左右されない**ので販売先の1つとして輸出を視野に入れる
- 輸出先国によっては国内程**求められる規格が厳しくない**

生産者の収入を安定させたい
収入が安定することで生産量の維持・拡大に繋げる

輸出実績

JAてんどう/ジェイエイてんどうフーズ

	2021年(実績)			2025年(協議会目標)		
品目	西洋梨	葡萄	桃	西洋梨	葡萄	桃
輸出額*	34万円	260万円	15万	2,000万円	1,000万円	2,000万円
輸出量*	720kg	1100kg	170kg	50,000kg	5,000kg	25,000kg
輸出 先国	香港 台湾			香港 シンガポール 台湾	香港 シンガポール タイ 台湾	

*2021年(実績)の数値は上から2桁の概数

輸出拡大へ向けた課題認識

輸出向け商品の確保、販売戦略策定、出荷体制整備が課題

輸出向け商品の確保

- **高齢化**等による生産者の減少
 - **不安定な天候の影響**による収穫量の減少
-

販売戦略策定

- 間接輸出のため、**輸出先国毎の規制やニーズ**が十分に把握出来ておらず、販売戦略が不十分
-

出荷体制整備

- 検疫対策や鮮度保持など、**輸出を想定した品質管理による安定出荷**が必要

課題を踏まえた輸出産地体制の構築

系統・系統外の垣根を超えた輸出取り組みを開始

- **ジェイエイトんどう輸出推進協議会を設立**
 - ✓ **山形県産青果物の輸出推進を目的**として、JAてんどう、JAてんどうフーズ、全農山形、アライドコーポレーション、GFP 農林水産物・食品輸出プロジェクト等が参画して、協議会を設立
 - ✓ **ジェイエイトんどうフーズが窓口**となり**山形県の系統品、系統外の商品を輸出**
 - ✓ 2022年は**シンガポール、マレーシア、香港に桃を輸出**

5年後には桃だけで100tの輸出を目指す

JAてんどう/ジェイエイてんどうフーズとは

今後の輸出計画の策定は勿論、生産者の輸出に関わる知識の向上を目指した取り組みも行う



- **品質保持に関する実証実験**
 - ✓ DENBA社からコンテナとDENBA+*をレンタルして、リーフアークコンテナでの冷蔵保管
- **流通の実証実験**
 - ✓ 輸出先国で着荷状態を確認
- **生産者向け輸出に関する勉強会**
 - ✓ 総論となる輸出概要や各論となる食物検疫等をテーマに実施予定

JAてんどう/ジェイエイてんどうフーズとは

2022年は1か月の期間で桃を約20t輸出

コールドチェーン輸送*保冷車にて



海外での販売風景



2023年は輸出先国にタイも追加して、8月15日以降の早い段階から輸出を開始し、9月末までに40tを目指す

輸出取組事例

輸出向け商品量を拡大する施策を展開

収穫量の拡大

- 桃の晩成品種の**作付面積拡大**
- 国内外問わず、需要が多いので供給量を確保する

輸出向け 商品作りの 動機付け

- **生産者に輸出のメリットを伝える**
- **輸出用果実を国内向けより買取価格を高く設定**

他産地からの 仕入れ

- 輸出商品は**山形県内の他市町村**からも仕入れを行う
- **産地リレーの第三走者**としての位置付けを狙う

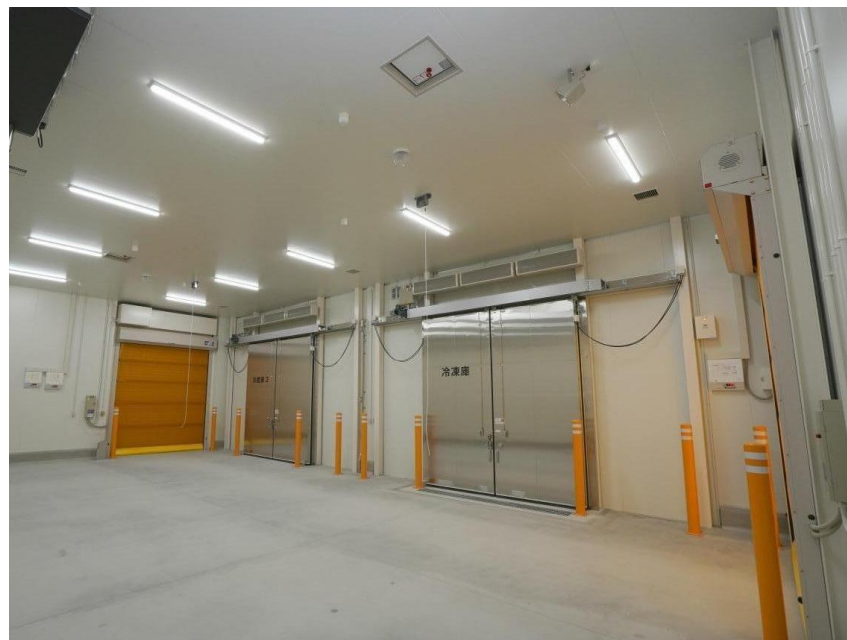
輸出取組事例

ジェイエイトんどうフーズでは2020年の
新社屋への移転に伴い、選果施設を新しく整備

ピッキング場



冷蔵庫・冷凍庫



クリーンルームを備えたHACCP対応の選果施設や冷蔵施設の活用しながら、**高品質な状態での安定出荷**を目指す

輸出産地づくりの展望

さらなる輸出に向けた品目・量の拡大を行うことで 産地リレーの第三走者を目指す

産地リレーの 第三走者へ

- 山形県で生産している桃、葡萄、柿、メロンは海外で人気の高い輸出有望品目
- 山形県は国内の他産地と出荷時期が大きく重ならない

地域内連携の 強化

- 協議会を中心に県内で団結して輸出に取り組むことで輸出向け商品の量を確保する

輸出品目の 拡大

- 生産量全国一位の西洋梨を新たな輸出商品へ
- 輸出を目指す産地の掘り起こし

輸出を始める上でのポイント

輸出実務に関わる、コミュニティに属することで 輸出に対する理解を深める

- **輸出実務に関わる**

- ✓ JAてんどう、ジェイエイてんどうフーズの人でも輸出に関わっているか否かで輸出に対する理解が大きく異なる
- ✓ 積極的に商談や実務に関わることで輸出の理解が向上する

- **コミュニティから輸出に関わる情報を獲得する**

- ✓ 輸出事業者と交流することで、現地ニーズの情報を仕入れる